

名詞 (noun) と冠詞 (article)

おそらく、日本人が英作文で最初に苦労するのは名詞の冠詞をどのようにするかという点であろう。日本人が書いた英語では、かなり冠詞の使い方が間違っているという指摘を受ける。

この冠詞でよく引き合いに出されるのが、つぎの文章である。

I ate chicken yesterday.

I ate a chicken yesterday.

多くの日本人は、不定冠詞のあるなしが大きな問題と思わないが、これらふたつの英語の文章には明確な違いが生じる。それは、最初の文章は、「わたしは昨日鶏肉を食べた」という意味になるが、つぎの文章は「にわとりをまるまる一羽食べた」という意味になるからである。

英語では、肉は数えられない名詞であり、無冠詞となる。これに対し、数えられる名詞としての a chicken は「一羽のにわとり」という意味になってしまうのである。数えられる名詞を可算名詞 (countable noun) 数えられない名詞を非可算名詞 (uncountable noun) と呼んで区別している。当然のことながら、可算名詞には複数形 (plural form) があるが、非可算名詞にはない。

日本人が苦労するのは、単語がすべて、このどちらか一方に分類できれば問題ないが、chicken の例のように、同じ単語でも、その意味によって、可算と非可算になる場合があることである。さらに残念なことに、countable と uncountable の違いを客観的に(あるいは明確な理屈をもって) 区別することはできない。例えば、日本語の「情報」に相当する英語の "information" は非可算名詞である。An information や informations とは言わない。アナログの時代であればまだしも、いまやデジタル時代で情報も 1 個 1 個数えられる時代である。可算でもいいと思われるが、そう簡単に言語のルールを変えるとことはできず、いまでも非可算名詞のままである。あえて非可算名詞を数えたい場合には、a piece of information のように表現する。例えば、日本語の「家具」にあたる "furniture" は、日本人の感覚からすれば可算名詞であるが、英語では非可算名詞であり、a piece of furniture となる。

ただし、英和辞書を参照すれば U と C のマークで、その名詞がどういう意味の場合に、どちらに属するか書いてあるので、億劫がらずに確認すれば済むことではある。ちなみに、英語圏以外の欧米人が書いた文章でも、可算名詞と不可算名詞の混同は数多くみかける。つまり、英単語の可算のとらえ方は、万国共通ではないということである。

また、冒頭で chicken の例を出したが、a pig (豚) の場合の豚肉は pork、a cow (牛)

の場合の牛肉は **beef** のように、肉の名前には、大抵別の名称があるので、**I ate a pork.** と書いても深刻な誤解も与えないことを付記しておく。もちろん、**I ate a roast pig.** という言い方も可能で、この場合は、「まるまる一頭の豚をむし焼きにしたものを食べた」という意味となる。

Countable と **uncountable** は辞書を調べれば、どちらかということが分かるので、不精さえしなければ、間違えることはない。また、理系の英語では、使う単語が限られているので、ある程度経験をつめば自然と体得できるようになっている。冠詞に関して、日本人が間違えるのは不定冠詞と定冠詞 (**the**) の使い方であろう。実は、理系英語では、かなり明確なルールがあるのだが、その解説は次号にゆずることにする。